

「あふれる愛」

聖句「わたしは、あなたに約束したことを
果たすまで決して見捨てない。」

—これからもともに—

—創世記28章15節後半—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2014年8月19日
第126号

テーマ〈与えてくださる神様に従って〉

高座みどり幼稚園

園長 鈴木 裕 美



聖 句

「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」

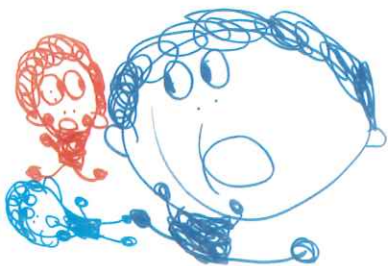
(コリントへの
第一の手紙3章6節)

夏休み後半に差し掛かりました。この時も保育の業についておられる方、2学期の準備にとそれぞれお忙しい日々をお過ごしかと思えます。特に今年度は新制度に向かって各園が選択をし、備えておいでかと思えます。かけがえのない時代を生きて子どもたちのためにそれぞれが最善の選択を祈りつつ進められますようお祈りいたします。

私たちは現在の施設で保育者・職員として夢や希望をもち、その働きを担っています。ところが、さまざまな経験の中ではたして自分はこの

働きにふさわしい者なのだろうかと思われ、立ち止まる経験をした方がおられるのではないかと思います。こんなはずではなかったと何度も工夫をしてはみるもの、うまくいかないことに落胆することも。私も心のどこかで、「努力を重ね一つ一つの事柄を解決してきた」と思ってきたことがあり、思い通りにいかないことに苦しさを感じたことも幾度となくありました。確かに小さいころから「努力すれば報われる」といった経験を繰り返しながら今があるのです。しかし今、この「努力すれば報われる」ということが難しくなっていることを耳にします。そして努力してもなかなか変わらない状況に閉塞感や無力感を感じ、身動きがとれなくなつて苦しくなる。保育の中でも本当にこれで良かったのかと何度も悩み、確信が持てず自分の無力さを感じてしまう。また、保護者や同僚に理解を得ようと努めたにもかかわらず、かえって誤解が生じ、受け止めてもらえず苦しい日々が続くことがあるものです。

ところが聖書を読むと、全てが神様から与えられているのだということがわかります。実は私たちが近く前に神様の方から近づいてきてく



思い当たる点も僅かにあるものの、自分の中にある変なプライドが邪魔して、本来変わらなくてはいけない部分も、成長しないままではいけないのか、と反省しました。『プロトは、自分の弱いところをきちんと理解している人のこと。自分を開き、保育を開いて他の人からアドバイスを頂くことで保育が変わっていく』というお話も伺い、園全体でもっとお互いの保育を開きあって、切磋琢磨して成長していくことが出来たらという思いが与えられました。

〈役員会報告〉

書記 奈良 昌人

役員会は四月四日(金)、四月二十二日(火)、五月二十日(火)、六月二十六日(木)に開催されました。主なことを報告いたします。

◆四月十六日(水)に開催された二〇一四年度総会議事録を承認しました。

【役員変更】：部会長・島田勝彦先生が清水ヶ丘教会・白百合幼児学園を辞されたため、残任期一年の新部会長として鈴木裕美先生(高座みどり幼稚園)が選任され、副部会長兼会計・清水 臣先生(戸塚ルーテル教会附属幼稚園)、書記・島田美緒先生(浅野記念御濠端幼稚園)に変更になりました。また、新部会規約が承認されました。

◆新任歓迎会

四月二十三日(水)野毛山幼稚園にて行なわれました。礼拝では菊池丈博牧師(大塚平安教会)より説教をいただき、礼拝の後、加部公子先生(鶴沼めぐみルーテル幼稚園)から新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。百十五人参加。

◆第一回講演会

六月四日(水)に野毛山キリストの教会にて、玉川大学教育学部乳幼児

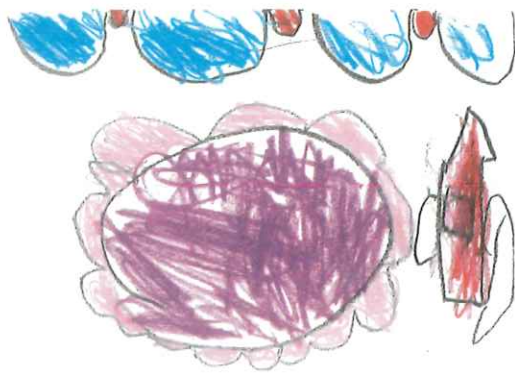
発達学科教授 四季の森幼稚園園長 若月芳浩先生より「子どもの心を大切にしたい保育とは」保育を見直すことと育ちの関係」のテーマでお話を伺い、自分の保育を見直す良い機会となりました。百二十二人参加。

◆新任教師研修会

六月十一日(水)、十月二十二日(水)、一月二十一日(水)に横浜英和幼稚園にて午後3時より開催。

◆夏期講習会

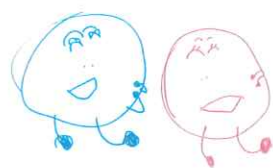
八月十九日(火)関東学院大学金沢八景キャンパスにて開催。
基調講演・渡辺久子先生(LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡辺 渡辺 醫院副院長)



編集後記

暑い夏もそろそろ終わりに近づいてまいりました。神奈川部会の夏期講習会も神様のお守りのうちに無事開催する事が出来ました事を感謝致します。「食」と「子ども達」に対する各園の先生方の想いの詰まったテーマを始め、各原稿をお寄せ下さった先生方に改めてお礼を申し上げます。

発行日 二〇一四年八月十九日
印刷所 樋口タイプ印刷
編集者 神奈川部会 広報担当
聖鳩幼稚園 林 光
のぞみ幼稚園 藤田 希恵子
イラスト提供 宮の台幼稚園



「テーマ」 食育について

心を育てる

楽しい食育

中瀬新生保育園

主任栄養士 栗原実和子

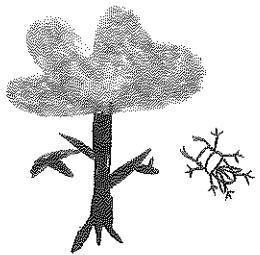
近年「食育」という言葉をよく耳にしますが、どのような意味をもっているのでしょうか？

「食育」は「しよくいく」と読むことから、当園では次のことをテーマに実践しています。

- ①食べて感じる「食感の食育」
- ②触れて感じる「触感の触育」
- ③目で見て色を感じる「色育」

ここで、開園5年目の当園の取り組みを紹介いたします。

幼児クラスが栽培物の選択から収穫までを約半年かけて行い、見て触れて成長を楽しみに待っています。一昨年に行ったさつま芋栽培は、大豊作で恒例になりました。昨年度は遠足気分ダイナミックな芋掘りを体験。そこには、成長の喜びを感じ大きな達成感を得た子どもたちの姿



「食」を楽しむ「育つもの」

めぐみの幼稚園

副園長 田崎由布

園庭の一角にチェリーセージが毎日花を咲かせています。年少の女の子たちが、時々押し合いながら花を摘み、蜜を口にしています。

「みつ、おいしいね」
「あまいね」

花自体は小さく、蜜もわずかしか吸えないのですが、子どもたちに大人気のスポットです。

食べるのが大好きな年中のSくんは、登園すると必ず毎日畑に行き、夏野菜の成長をチェックします。

「もうたべられるかな」

畑や作物を愛する気持ちがあるのはうれしいことです。が、年長児が大切に育てている野菜を一足早く収穫してしまったり、ジューンペリーの実をたつたひとりで一つ残らず食べてしまうこともあります。

私たちは、日常の中にある「食」を楽しむということを大切にしていきます。

蒸し暑い日に、「冷たいミントティーが飲みたい」とミントの葉を摘む子ども。よもぎ

ちに「幼稚園のほうれん草は柔らかくて美味しいよ！食べてごらん」と励まされ、一口バクリ。「美味しい！」と笑顔になりおかわりをしました。そしてお家に帰って「お母さん、今日お野菜食べられたよ。美味しかったよ」と嬉しそうに報告したそうです。

育てる野菜を自分たちで決め、自分たちで買に行くことよって苗を大切に育て、育っていく過程を観察したり、収穫の喜びを感じたり、調理する楽しさを体験したりすることが食育になるのではないかと思います。そして何よりも「友だちと一緒に食べる！」ことよって「楽しく食べる」ことが実現され、「食べる意欲」を育てて欲しいと願います。



だんごを作っておいしかったから、降園後のおやつ用にせつせとよもぎ摘みにいそしみ、持ち帰る子どもも収穫したきぬさやの調理法について「塩味のしょうゆ味のは食べたから、次はバターしょうゆにして。」

「いいね、それ。楽しそう（おいしいそう）」

なんとか実現できるよう応える保育者。子どもたちのセンスオプワングーから私たちの保育も磨かれています。そして、「食べる」という行為とそれまつわる子どものおそびが、子どもの感性を「育んで」いきます。

美味しいね！

関東学院六浦こども園

主任 鈴木直江

「今日は、庭の畑でできたキャベツを皆で収穫するよ」と声をかけると興味のある子どもたちが先生と庭に出て畑の周りに集まってきました。栽培に詳しい地域の方にご奉仕いただいていた育てたキャベツを子どもたちは数人で抱えて収穫しました。

「キャベツの外側の葉は、鬼葉っぱと言って食べないでまた畑に戻すん

みんなで食べる おいしいね

平塚双葉幼稚園

高久華子

毎年、園庭の一部にある小さな畑に何の野菜を植えようかと子どもたちと相談して種苗店に苗を買に行きます。苗を植えると、毎日水遣りをしては大きくなっていく姿を楽しみにし「先生！お花咲いてるよ」「ここにおひげみたいなのがでているよ！」「どんな小さな変化も子どもは見つけ出します。やがて小さな実がなり、大きく育つといよいよ収穫です。収穫が子どもたちの一番の楽しみで、野菜を手にした姿は喜びに溢れています。

また、月に一度のクッキングでは子どもたちと材料を話し合い買に行くところから行ないます。園庭で収穫した茄子やトマトをたっぷり入れた夏野菜カレーを作った際には、茄子を刻みながら、「本当は茄子嫌いなんだけどな。でも幼稚園の茄子なら食べてみよう。」とつぶやく子。冬の時期にはほうれん草を見つめながら、「ほうれん草が苦手なんだよね」と言っていた子ども、周囲の友だ

講演会に 参加して

のぞみ幼稚園

河原

結

6月4日、野毛山キリストの教会を会場として、「子どもの心を大切にしたい保育とは」保育を見直すことと育ちの関係、という演題で若月芳浩先生からお話を頂きました。保育を見直す総合的視点として、高度経済成長の時代と現代の子育て環境を見るときに、明らかな変化が見られました。その為、従来行ってきた保育の進め方が全て「今の」子ども達の姿や子育てのニーズに合っている訳ではないという事。もちろんすべてを変える必要はないと思いますが、私達が立ち止まって、昨今の状況や、目の前にいる子ども達やそのご家族の姿をもう一度考え、受容する必要があることを強く感じました。

「成長することとは、変わっていくこと」講演中、心に留まった言葉の一つです。私自身、幼稚園教諭になってから成長した事、変わった事があったのだらうかと考えました。